

平成25年度 基金決算の お知らせ

年度末年金資産は約156億円に

当基金の平成25年度決算が、去る9月9日に開催された第53回代議員会において審議され、全会一致で可決・承認されましたのでお知らせします。

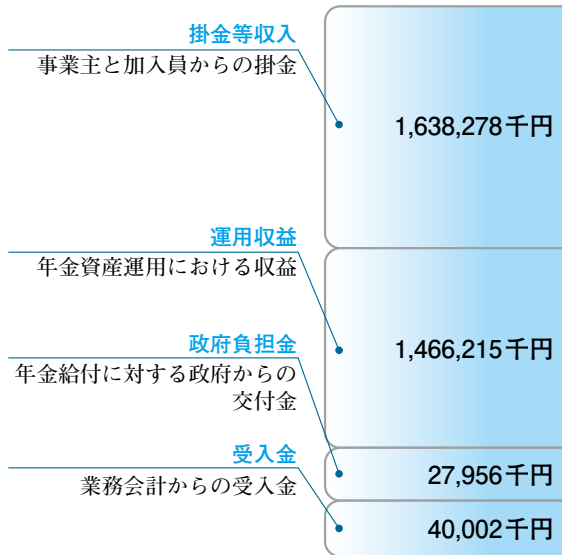
平成25年度の運用環境は、国内・米国ともに景気に改善が見られ、前年度末比の株式市場はともに上昇しました。その結果、当基金の資産運用利回りはプラス10.9%となり、当年度剰余金を計上しています。なお、当年度剰余金は全額別途積立金として次期に繰越されました。

年金経理

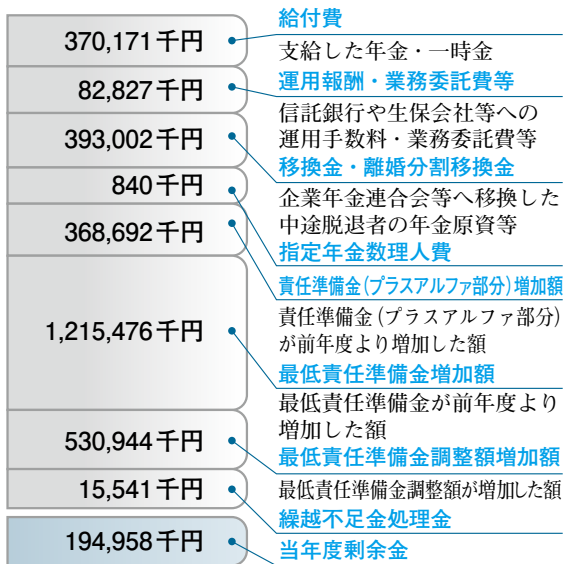
年金・一時金の給付に必要な収支に関する経理です。

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収益勘定 3,172,451千円



費用勘定 3,172,451千円



平成25年度末時点の積立状況

年金資産と責任準備金

下図は、貸借対照表を図式化したものです。資産勘定の「年金資産」と負債勘定の「責任準備金+支払備金等」を比較し、前者が大きい場合は剰余金が生じ、後者が大きい場合は不足金が生じます。

資産勘定 15,608百万円

年金資産	15,608百万円
信託資産	14,348百万円
保険資産	1,017百万円
預貯金等	243百万円

負債勘定 15,608百万円

責任準備金	15,109百万円
責任準備金(プラスアルファ部分)	2,773百万円
最低責任準備金	11,413百万円
最低責任準備金調整額	923百万円
支払備金等	304百万円
当年度剰余金	195百万円

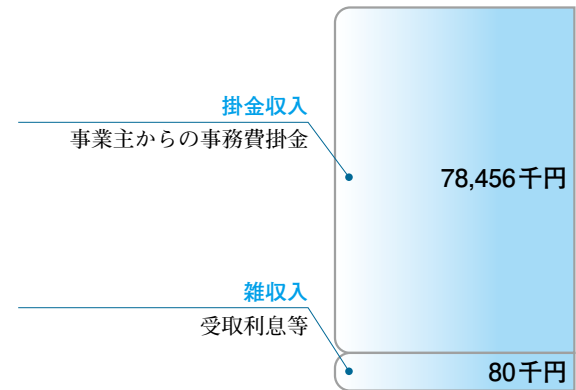
(平成26年3月31日現在)

業務経理・業務会計

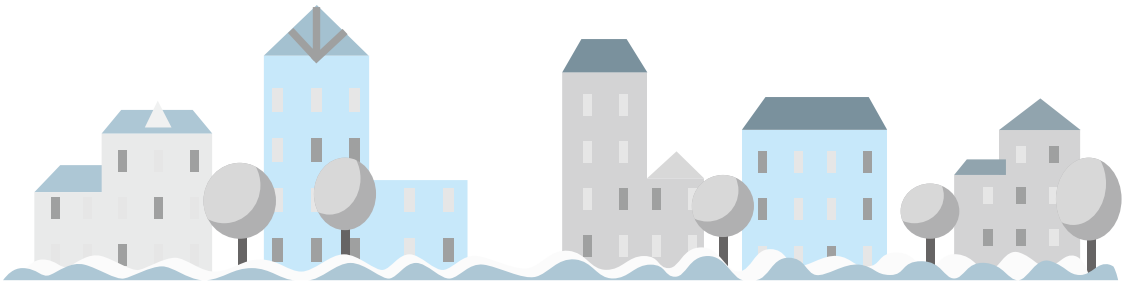
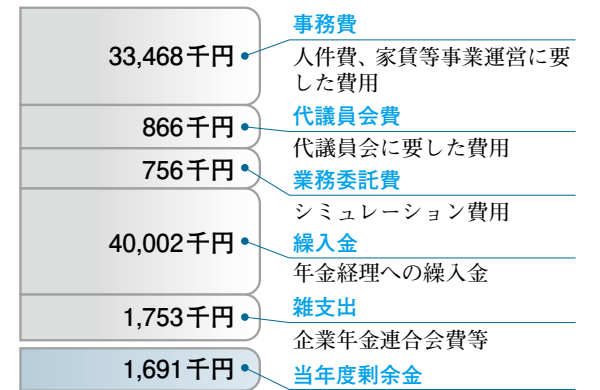
基金の業務に必要な費用に関する会計です。

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収益勘定 78,536千円



費用勘定 78,536千円



平成25年度

積立水準の検証

基金では、毎年度積立水準の検証を行っています。検証方法は、基金が将来的に継続することを前提とした「継続基準」と、決算時点で解散することを想定した「非継続基準」の2つの基準によって行われます。継続基準においては、最低責任準備金に付利する利回りが国の厚生年金の平成23年度[2.17% (平成25年4～12月に付利)]、平成24年度[9.57% (平成26年1～3月に付利)]

と期ズレを生じていることから、責任準備金は期ズレ分を調整した額となっています。

当基金における平成25年度末の積立水準は下表のようになっており、継続基準・非継続基準ともに基準値をクリアしていますので、変更計算等を行う必要はありません。今後も財政状況を注視し、対応してまいります。

区分	当基金の積立水準		基準値	
継続基準	純資産額	15,304百万円	=1.01	
	責任準備金	15,109百万円		
非継続基準	代行給付について	純資産額	15,304百万円	=1.34
		最低責任準備金	11,414百万円	
	給付の全体について	純資産額	15,304百万円	=1.08
		最低積立基準額	14,110百万円	